

男女平等推進  
from  
むさしの

# まなこ

性  
について  
知るこゝと、  
学ぶこゝと

- 幸せに生きるための性の学び ..... P.2
- やまがたさんに聞いてみた! ..... P.4
- 関連図書・相談先の情報 ..... P.6

# 性について 知ること、 学ぶこと

性に関することは話しづらいと感じることはありませんか。  
知識を持って選択することは幸せに生きることにも繋がるといわれています。  
今号では「性」について知ること、学ぶことの大切さについて考えてみました。

## 幸せに生きるための性の学び

妻の体調を理解できず気持ちが悪く、性に関する理解の大切さ。  
長年教育者として人間の性について研究されてきた村瀬さんにお話を伺いました。

### 人間と性

学生時代に出会った妻と結婚後、二人の関係に悩んだ時期がありました。月経が重い体調の妻に対し、私が無理解で、ギクシャクしてしまっただけです。夫婦で話し合い、性について正しい知識を身に付け、いろいろ言い合える良い関係を築くことができました。

性について考えるとき、「トコロの性」と「トコロの性」の両面があります。日本では、主に「トコロ」に関わることー月経（生理）・妊娠出産・性行為に伴うトラブルなどが教えられてきました。しかし、これらは性を語る上でほんの一部分です。大切なのは「トコロ」の性で、人間のあり方や男女のあり方に関わることです。自分の生き方や他者との関わり方について認識・理解をし、「自分が大事だよ、相手も自分と同じように大事だよ」とお互い

を尊重することを強調していかなければいけません。性を理解することはとても重要で、人生の核心的なテーマだと思っています。

### 正しい性知識と対等な関係

ジェンダーギャップが少ない北欧の国々は性教育に熱心です。男女が平等で対等な関係を築く根本に性の理解があります。しかし、これらの国々も昔からそうだったわけではありません。宗教的に女性が男性に従う文化があり、差別もとても多かったです。欧米では1960年代から70年代にかけて男女差別をなくそうという運動が起こり、急激に変わっていきました。マイノリティを含め、すべての性のあり方を認める考え方へジェンダー意識が変わっていったのです。日本は明治時代以降、家父長制によ

言葉に耳を傾ける「リスニング」に変えることが大切です。相手の顔を見て、自分の意見を言うことで、子どもは自立できるように育ちます。そして、親に依存しないでも生きていけるようにすること、これが愛情であり、教育です。

ところが、子どもを生きがいのように思うあまり、「あなたのため」と強力的な締めつけをしたり、ペナルティを課したりする母親もいます。男の子が最初に接する女性は母親です。口数が少なく、嫌だと言えない男の子は、言葉にできないながら心の中では憎しみと恐れを蓄積してしまつこともあります。女性に対しコンプレックスを積み重ねた男の子は女の子と対等に関われなくなるのです。全てではないですが、女性に暴力を振るう男性の中にはこういう経験を引きずっている人もいます。可能性が十分にありません。

それから、子どものしたい・したくないという意思表示を、尊重したいですね。親の言葉に対し、子どもが「嫌だ」と「NO」を示すことはかなり勇気が要ります。嫌な理由を聞かれるのが面倒だ、嫌われたくない、いい子になつた方が楽だと思ってしまうからです。男女関係で、相手の誘いに対し「NO」と言えないというのも同じです。でも本心からではないので次第に惨めになってしまつ。まさに「トコロ」の性ではなく「トコロ」の性の問題です。ですから、子どもが「NO」を言つた時、まずはきちんと受け止める。

その上で理由について自分の意思を伝えて「大丈夫だ」と学ぶことで、子どもは自主性、主体性を持つことができるようになります。男女の関係においても、確かめ合つて互いに同意をとること、その際相手の「NO」を受け入れることが必要だと伝えていきたいですね。日本では性的行為に対して同意する能力があるとみなされる性的同意年齢は13歳と定められています。知識も判断能力も未熟にも関わらず、13歳以上であれば、性被害を受けた場合、暴行がなければ有罪にならない。諸外国では16歳〜18歳が一般的です。\*現在やると日本でも16歳へ引き上げる検討がされていますが、行方が注目されます。

### 思春期の子どもへ性の知識をどう伝えていくか

子どもが思春期になったら、性について教えるのは難しいです。でも、価値観や関係性、差別等の対応の仕方などを伝えていくことは必要です。子どもの差別的な発言に「その言い方はおかしいね」とか、テレビの暴力シーンには「ひどいね、許せない」などと話すのも教育です。更に、微笑み合っている、馬鹿にしている、攻撃的な言葉を使っているなど、両親の言葉の交わり方からも男女の関係性を学んでいます。これは性についてあれこれ言葉で教えるよりもずっと教育的な力があります。

る男尊女卑の考えが広げられ、女は男に従えばよいという性の意識が作られ、深く浸透してきました。今でも、女性が痴漢をされるのは短いスカートを履くからだとか、援助交際や売春などの問題も女性のせいと言われてしまつ。性について語られるとき、基本的に女性の生理に関することが中心で、男性の性については放置され続けてきました。世の中にあふれる無責任な情報や偏見に囚われず性を科学的に見ること、互いの性に関する正しい知識を身につけていくことが、対等な人間関係を作る上でとても重要になってきます。

### 思春期の子どもとの付き合い方

思春期は子どもが自立していく時期です。子どもが親から離れていくことが「成功」なのです。親は思春期になったら子どもを、もし付き合う子ができたときには、「あれするな、これするな」と命令せず、親の心配をしつかり伝えて「相手の人を不幸にしてはいけませんよ」「避妊とか病気の問題とかちゃんと勉強してる？」などを話すとよいと思います。正しい理解をしていないと、幸せになるための行為で不幸せになることがある」と大人としての見識を伝えるべきです。

### 幸せな関係のために学ぶ性知識

幸せな結婚をしたはずの二人に今問題があったとしても、もともと関係が悪かったわけではなく、様々な理由が



村瀬幸浩さん  
東京教育大学(現筑波大)卒業後、私立高校保健体育教員として総合学習「人間と性」を担当。退職後、25年間一橋大学、津田塾大学等でセクソロジーを講義。一般社団法人「人間と性」教育研究協議会会員、日本思春期学会名誉会員。著書に『恋愛で一番大切な「性」のはなし』、共著に『おうち性教育はじめます』(いずれも KADOKAWA)などがあ

あるはずですが。いろいろなケースがあつて一律ではないけれど、相手に関心を失い、自分の喜びや悲しみを伝えたり共感したりする関係を作つてこなかったことに一因があると思います。二人の関係を振り返つて、どうすればよかったのかと共に反省し、これから先どうやっていくか、改めて「仕切り直し」をしていくといいですね。共同生活者として、家事育児なども含め二人でどう関係を作ってきたか話し合うことで、少しずつ変わっていくはずですよ。

更に、正しい知識をもつことはとても重要です。例えば女性には月経があり、人によって気分や体調に大小の波があることを知っている男性は少ない。また男女共に訪れる更年期についても互いの理解が乏しい。知識があれば、配慮できるようになるはずですが、それぞれの性に対する無知や偏見のために分かり合えないのは極めて残念です。理解し合えれば確実に関係は変わっていきます。

性についてきちんと向き合っていないと、相手に対して軽蔑と憎しみを抱き、気持ちが離れていく大きな原因になります。だからこそ、人が幸せに生きるためには性の理解が必要になってくるのです。学んでいくことで、二人の関係はもとより、社会全体が次第に変わっていくと違いありません。

【取材】沼田仁子／取材・文 久留明美

\*2023年1月現在

# やまがたさんに聞いてみた！

編集委員の秋山が助産師のやまがたさんに、さまざまな性の疑問、性について子どもに伝えたいことを聞いてみました。



●やまがたさん  
助産師。二児の母であり、母親の産後の心のケアや家族を含めた子育て支援を行う。著書に「13歳までに伝えたい男の子の心と体のこと」(かんき出版)、「15歳までの女の子に伝えたい自分の心と体の守り方」(かんき出版)

◆聞き手 編集委員 秋山  
とにかく毎月の生理痛が辛い30代

●こんにちは。助産師のやまがたです。私は思春期のお子さんやその親御さんたちが、性の知識や状況を考えるきっかけとなるような本を数冊執筆しています。私はどの本も、「自分を大切にすること」という軸で書いています。自分の心や身体を大切にするためには知識が必要になりますが、今の日本では、子どもも大人も性に関する知識がまだまだ足りない現状があると思います。

今日は編集委員の秋山さんや誌面の読者の皆さんにさまざまなことを知って頂いて、性について考えるきっかけを作れたらと思います。

◆本日はよろしくお願ひします。性に関することは、本当に大事なトピックだと思います。だからこそ、他の人の意見も聞きたいけどつい尻込みしちゃってます。まして、子どもと性の話をするのは更に恥ずかしいなあと思ってしまいます。

●確かに性の話はとても難しいですね。大人それぞれの主観で性を「恥ずかしい」と思ってもいいけど、それ子どもに押し付けられないことが大事だと思います。

◆尿ですよ？それは…もちろん汚いと思います！

●正解はNOです。体内から出た尿自体には雑菌が入っていないので実は綺麗なんです。そもそも尿に雑菌があれば膀胱炎になってますから。

◆このように恥や汚れの文化って、知らない間に大人から植え付けられていることが多いです。性に関する話も同じで、夢精で精液がついたり、おりものがついたりした下着は汚いでしょうか？ 体液が付着しているだけのことを、あえて主

観を込めて汚いと表現しなくてもいいですよ。

◆あくまで身体の仕組みの話をしているだけなんです。ただ、これらのことを理解していない大人もいて、「汚い」だけでなく「恥ずかしい」「いやらしい」などバイアスのかかった発言を無意識にしていたりするんですよ。

◆なるほど。身体の仕組みだと思えば、恥ずかしいという感覚ではなくなる気がします。

●科学の話をしているだけなんです。科学という点でいうと、性ホルモンはご存知ですか？

◆もちろんです！私自身PMSがひどくて、自分なりに女性ホルモンのことは調べています。まだちゃんと理解は出来ていないのですが…

◆倍なんです。予期せぬ妊娠をして中絶を選択した人のうち半数は、コンドームを装着して性行為を行っていたというデータもあるほどです。

◆今の話は、男性がコンドームをつけず女性が低用量ピルを服用すればよいというものではありません。コンドームはHIVなど一部の性感染症の予防に効果的です。相手を大切にしながら自分を守るためにもコンドームは装着すべきです。

## 子どもに伝えたいこと

◆とても素朴な疑問なのですが、家庭では「男の子には父親から」「女の子には母親から」性の知識や大切なことを伝え方がよいのでしょうか？

●必ずしも同性の親が伝えることはないんですよ。どんな親子にも相性ってあるじゃないですか。性のコミュニケーションは決して特別なものではなくて、あくまで普段のコミュニケーションの延長です。普段から話しやすい空気や、一緒に考えようみたいな雰囲気を出していればいいのかなと思います。

◆あとは、性別関係なく同意をとるという感覚はとても大事です。親でも子どもを抱っこしたりチューをしたりスキップをとるときに「〇〇していいかな？」と尋ねるようにする。同意を取ることで、一定以上の接触に境界線がある

●PMSは月経前症候群が強く出てしまつたんですね。生理前や生理中の身体の不調って本当に辛いですよ。これの不調の多くは性ホルモンによって引き起こされます。秋山さんは女性ホルモンと言ったけど、正しくは「性ホルモン」と表現します。なぜなら男性にも性ホルモンはあるからです。生物学上の男性は、思春期を迎えると性ホルモンが一気に増えます。そして40代ぐらいまで一定していて、その後ゆっくりと減っていきます。

◆対して生物学上の女性の方は、一筋縄ではいきません。左ページのグラフを見てください。女性は28歳をピークとして7年ごとに変化していきます。また、毎月の生理やPMSも性ホルモンの増減によるものです。つまり女性の性ホルモンには、年齢・月・日とさまざまな波があるんです。

◆身体や性ホルモンの仕組みを知ること

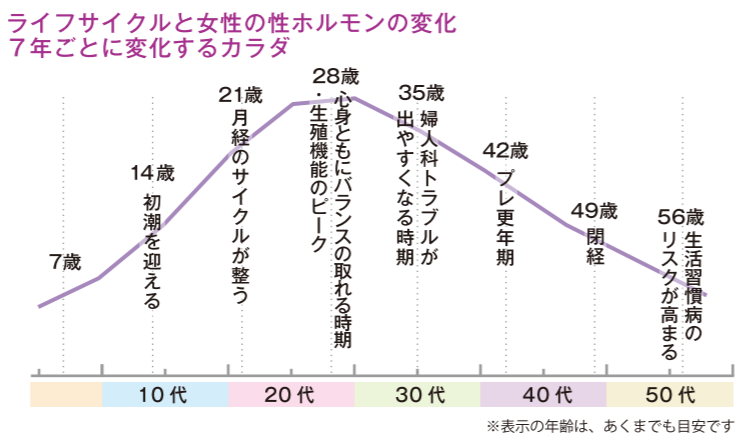
◆なるほど。子どもの人権や性被害の気付きを考えると、親子の間でも同意は必要ですね。大人も子どもも、性に関する知識は必要だと改めて感じました。

◆冒頭で、自分や相手を大切にすることが知識が必要だとお話ししましたが、知識があれば私たちは想像することができます。例えば、コンドームをつけるのが嫌だから「低用量ピルを飲んで」と彼女にお願いしたら嫌われてしまった、普段から生理痛がひどいのに生理前に冷たいものを摂取したら更に生理が重くなってしまったなど…

◆私たちは幸せになるために生きています。性についての選択ができることも、ライフスキルをあげて良い人生を歩んでいくひとつの大きなファクターです。大人も子どもも、必要な性の知識をいつでも学び合えるような社会になっていけたらいいと思います。

◆とても勉強になりました！ありがとうございました。

取材 羽柴美／取材文 秋山莉奈



◆うーん、正しく装着して破けたりしなければ1%ぐらいでしょうか？

●避妊失敗率の正解は次の通りです。コンドームは2〜13%、低用量ピルは0.3〜7%。つまりピルの避妊効果はコンドーム

◆女性は性ホルモンの波が圧倒的に多いんですね。正直、毎月の生理がこれからは、生理痛やPMS、不妊治療、更年期障害への備えになります。現在不妊治療に取り組まれている方をたくさん見ていると、こういった身体の仕組みを思春期の頃から学べる機会がもっとあればいいのかなと思います。

●生理は子どもを産むためのものと思われがちだけど、決してそれだけじゃないんですよ。月経を引き起こす性ホルモンは、骨や血管をサポートし、健康寿命を延ばすような機能もあるんです。血管を強くしたり中性脂肪を下げたり、あとは肌の調子や髪の艶も良くしてくれる。出産のためだけではなく、もっともっと大事なことのために生理はくるんです。

◆聞いたことはありませんが、服用は考えたことがなかったです。

●低用量ピルにはPMSや生理痛を改善する機能があるんですよ。医師の処方が必要になりますが、しんどいときはそういったものを頼って性ホルモンの波

# ヒューマンあい だより

## ●男女平等推進団体の登録・更新について

男女平等社会の実現に向けて活動している市内団体を「男女平等推進団体」として登録しています。団体登録をすると、会議室の優先利用や補助金などの活動支援を受けることができます。詳細はホームページをご覧ください。

## TOPICS

### ホームページなどで情報発信しています

男女平等推進センター「ヒューマンあい」の取り組みを、ホームページなどで情報発信しています。アクセスしてみてください。



ホームページ



「まなこ」バックナンバー

## 講座レポート

### ●その恋本当に大丈夫？ 身近な問題としてデートDVを考える

日時> 令和4年11月9日(水)  
10:40~12:00  
場所> オンライン講座  
講師> 西山さつきさん  
(NPO法人レジリエンス代表)  
共催> 成蹊大学

「その恋本当に大丈夫？」と題し、好きな相手に対してイヤなことはイヤと言え、互いを尊重しあえる関係を築いていくためにデートDVについて学びました。

### ●文章カトレーニング講座(全4回) ～的確に伝えるコツを学ぼう～

日時> 令和4年11月25日、12月2、9、16日(金)  
10:00~12:00  
場所> 市民会館集会所  
講師> 中村泰子さん  
(雑誌『くらしと教育をつなぐWe』編集長)

男女平等の視点も交えつつ、わかりやすい文章の書き方からインタビュー・取材・編集のコツまで、幅広い内容を講義いただきました。参加者同士で取材をし、その内容をまとめたインタビュー記事を講師に添削してもらうことで、文章力向上のヒントも学びました。



### ●女性に対する暴力をなくす運動事業

◎知っておきたい離婚に関する基礎知識  
日時> 令和4年11月21日(月)  
13:30~15:30  
場所> 市民会館 集会所  
講師> 露木肇子さん(多摩総合法律事務所弁護士)

別居や離婚を考える時に必要な法律の知識や、DV、モラル・ハラスメントなどについての話を行いました。

◎DV防止展示  
日時> 令和4年11月12日(土)~25日(金)  
13:30~15:30  
場所> 男女平等推進センター交流コーナー

◎関連図書展示  
中央図書館 11月1日(火)~15日(火)  
吉祥寺図書館 11月12日(土)~25日(金)  
武蔵野プレイス 11月19日(土)~29日(火)

## 相談窓口のご案内 相談無料 秘密厳守

### ◆女性総合相談

女性が暮らしの中で抱える様々な悩みについて、女性の専門相談員がお話を伺い、解決に向けて一緒に考えます。夫やパートナーとのこと、家族のこと、職場や学校でのことなど、どんな些細なことでもかまいません。誰かに話すことで、気持ちが楽になることもあります。お気軽にご相談ください。

【相談方法】 面接・電話による相談  
【相談時間】 1回 50分/予約制

第1土曜日	①13:00~ ②14:00~ ③15:00~
第2金曜日	①18:00~ ②19:00~
第3月曜日	①14:00~ ②15:00~
第4火曜日	① 9:00~ ②10:00~ ③11:00~

### ◆女性法律相談

離婚・扶養(養育)・相続などの法的な対応や手続きについて、女性弁護士が相談に応じます。

【相談方法】 面接による相談

【相談時間】 1回 30分/予約制

第1土曜日	①9:30~ ②10:10~ ③10:50~ ④11:30~
-------	--------------------------------

【申込み方法】 「ヒューマンあい」窓口または、電話にて予約を受け付けます。

【予約電話番号】 0422-37-3410 (木曜・年末年始を除く午前9時~午後10時)

### ◆むさしのにじいろ相談(性的指向・性自認に関する相談)

セクシュアリティ全般や性的指向・性自認に関する悩み・相談に専門相談員が応じます。ご本人のみならず、ご家族や支援者の方などからの相談にも応じます。一人で悩まず、まずご相談ください。

第2水曜日	17:30~20:30
-------	-------------

▶電話相談: 0422-38-5187 ※予約不要

▶面談をご希望の方はこちらへご予約ください。  
0422-37-3410

## BOOKS 男女平等推進センターの蔵書から貸し出しています!

### 『あっ! そうなんだ! 性と生 —幼児・小学生そしておとなへ—』

浅井春夫、安達優雅子ほか 編著  
勝部真親子 絵  
(エイデル研究所)

「赤ちゃんはどうやって生まれてくるの?」など、性に関する疑問を子どもから聞かれ、答えに迷う保護者の方も多はず。そんなときにとても参考になる一冊。子ども向けの絵本編とおとな向けの解説編の二部構成になっており、子どもと一緒に、科学的に正しく性についての知識を学べる。

身体の成長、妊娠・出産、死との向き合い方から、性被害や性的いじめに至るまで幅広く解説され、性行為についてもごまかさず書かれている。子どもが生まれたら一家に一冊置いておきたい。

[文 若林優香]



## 女性のための健康ホットライン 東京都福祉保健局



思春期、避妊、婦人科疾患、更年期障害など女性の身体的、精神的な悩みの相談

受付日時  
月曜日~金曜日(元日を除く)  
10時~16時 03-5339-1155  
※メール相談はホームページ上の相談フォームに必要事項を記入して送信。  
※妊娠・出産に関する相談は「妊娠相談まっとうライン」03-5339-1133へ

## 公益社団法人 日本助産師会



子育て・思春期・更年期 女性のあらゆる相談(無料電話相談)

受付日時  
火曜日(祝祭日・お盆休み・年末年始を除く)  
10時~16時 03-3866-3072

## 東京都性犯罪・性暴力被害者 ワンストップ支援センター (性暴力救援ダイヤルNaNa SARC東京)



24時間 365日対応  
無料ダイヤル #8891  
0120-8891-77  
有料ダイヤル 03-5577-3899

## 男性のための悩み相談 東京ウィメンズプラザ



配偶者等からの暴力、夫婦や親子の問題、生き方、人間関係など、男性の抱えるさまざまな悩みの相談

受付日時  
月・水・木曜日  
(祝日・年末年始を除く) 17時~20時  
土曜日  
(祝日・年末年始を除く) 14時~17時

面接相談  
水・木曜日  
(祝日・年末年始を除く) 19時~20時  
※電話にて要予約 03-3400-5313  
※メールでの相談は行っていません。



「閉経」のホントがわかる本  
更年期の体と心がラクになる!  
対馬ルリ子・吉川千明著  
集英社

20代から読んで頭の片すみに入れておくように。  
母親や先輩女性のことも気遣えるかも。そして自分が行く道を正しく知っておこう。



産みたいのに産めない  
卵子老化の衝撃  
NHK取材班編著  
文藝春秋

知識が不十分で、知っているようで知らない女性の生殖。タイムリミットがあることを正しく理解し、人生設計が必要であることを知ることができ。男性不妊も取り上げられている。



男のヘルスマネジメント 大全  
石川雅俊著  
クロスメディア・パブリッシング

性ホルモンの働きを知り、正しく自分の身体に気を配らないと、長い人生、健康に過ごせない。  
数々の症例を見てきた医師から男性へのアドバイスがここの中に。



国際セクシュアリティ教育ガイダンス  
UNESCO編  
活かすために UNESCO編

浅井春夫/良香織/田代美江子  
渡辺大輔II訳  
明石書店

親としても世界基準を詳しく知るにはこの本。



マンガでわかるオトコの子の「性」  
思春期男子へ13のレッスン  
村瀬幸浩 監修  
染矢明日香+みすこそ著  
合同出版

親としてどう教えていいかわからない時、役立つ本。  
子どもの目につくように、さりげなくリビングに置いておきたい。

特集  
性について  
学ぶこと

関連図書・相談先の情報

「選」文 島崎理恵

## 武蔵野市立男女平等推進センター「ヒューマンあい」ご利用案内

〒180-0022 武蔵野市境2-3-7 市民会館1階 開館時間: 午前9時~午後10時(木曜・年末年始 休館)  
電話: 0422-37-3410 FAX: 0422-38-6239 Eメール: danjo@city.musashino.lg.jp

『まなこ』は文字通り「<sup>まなこ</sup>眼」。人やまちや文化や地球を、男女平等推進の視点＝「まなこ」で見ている！という思いで名付けられました。1991年創刊以来、市民が企画・編集にかかわっています。

令和4年度 第3回「まなこ」サポーター会議  
115号「男らしさ」「自分らしさ」を読んで

令和4年度 第3回「まなこ」サポーター会議が11月11日(金)に市民会館集会所にて開催され、活発な意見交換がされました。

◎男性は感情を言語化するのが苦手であるが、言語化することが重要であると伝えられていたのが興味深かったです。

◎育休の良い面はかりではなく、もやもやなどしんどさが男性の言葉で語られていたのが良いと思いました。

◎「社会が変わっていくために」という箇所、パートナーとのやり取りに感動し、勇気をもらいました。



◎男子校で育った方、市民インタビューの方のニュートラルな視点、男性育休取得者の葛藤、三者三様のスタンスが描かれているのがよかったです。

◎男らしさ女らしさの枠にとらわれず自分らしさのまま生きていい、というスタンスになったのは、どのようなバックグラウンドがあったのか知りたくなりました。

◎男性はこうあるべきという社会通念が、どうして今も根強く存在するのか、その点を深く掘り下げてよかったです。

◎「男らしさ」の葛藤を乗り越えたエピソードがあると、今悩んでいる人にも参考になるのではないかと思います。

〔文 若林優香〕

男女平等推進団体  
活動補助金事業を紹介します

アサーションを学んで  
グッド・コミュニケーション!!

日時：令和4年11月19日(土)  
14:00～16:00

会場：吉祥寺南町コミュニティセンター

講師：堤 暢子さん  
(Be-Happy! アサーティブネスの会主催)

主催：モヤモヤトークサロン

映画『最も危険な年』  
オンライン上映会と講座  
「トランスジェンダーの現状」

日時：令和4年12月18日(日)  
14:00～17:00

会場：オンラインによる実施  
講師：遠藤まめたさん  
(一般社団法人にじーず代表)

主催：lag

生き方・いろいろ・ゆたかな人生～男女平等推進fromおさしの『まなこ』第116号  
企画・発行：武蔵野市 市民部 市民活動推進課 男女平等推進センター 2023年3月発行 〒180-0022 東京都武蔵野市第2-3-7 TEL.0422-37-3410



『まなこ』サポーターの200字コラム

「性について知ると、学ぶこと」  
コトコト

少しでもヒントになれば… 鈴木章

今年度から「まなこ」サポーターになり、3回のサポーター会議に出席してきました。しかし回を重ねるごとに、課題の大きさに戸惑い、いつたどこから取り組んでいけばいいのか、どう取り組んでいけばいいのか、悩むばかりです。

今回のテーマは「性について知ること、学ぶこと」。これだけで一冊の本になるほどの大きなテーマです。性についての知識や価値観は、世代や男女間によって大きく違います。今回の内容が、少しでも皆さんのヒントになればと思います。

違いの理解は自己尊重の第一歩 柄目茜

中学時代、月経痛が重いために月に1週間程度登校しない子がいた。女性の中でも月経痛の軽重があり、その時期にどんな配慮が必要なのかも人それぞれなのだ。同じ女性という属性であっても多種多様な人が存在している。そのため、性別や体型など一見してわかるような特徴から相手を決めつけることなく、相手の状況や要望を理解し、尊重しようとするのが、他人を大切に、ひいては自分を大切にするための第一歩なのだと思う。

女性性と男性性 塚脇未来子

長男誕生時、夫は数冊の育児書を読んだのち「九つ」までは母親が、それ以降は自分が子育ての主導権を持つ、と宣言した。思春期の性を教える上での計らいかと思っていたが、今では「幼少期に母性や女性性特有の包み込む優しさや共感力を知り、十代は計画性や論理的思考などが優位な男性性を学ぶため」だと解釈している。期待するのは両方を使いこなす処世術の獲得ではない。自分にも根付く二つの性を自覚し、他者を認め深い配慮が出来る人間に育ってほしい。

Editors' Notes \* 編集後記

性に対して知識や選択肢が与えられない社会は、誰もが安心して自分らしく生活できる場所とは言えないと思う。一刻も早く現状が変わっていくことを願う。  
(秋山茉莉奈)

「まなこ」にたずさわり6年余り、テーマごとに息子と話す機会に恵まれた。特に性については、自分の体もだが異性のことも知り、気遣えるようになってほしいと話した。  
(鳥崎理恵)

正しい性の知識を理解することは、他者を尊重し、良好な人間関係を築くための土台作りになると学んだ。大人たちが、その重要性に気づき、子供たちに教えていけたらと思う。  
(沼田仁子)

性を学ぶ事は特別な事では無く、幼少期からの性の知識を生活の中に取り入れ、自然に身につけるのが大事だと分かった。異性に対する理解の重要性も感じた。  
(羽柴史美)

子どもは大人の言動から学ぶ、性について教えるより教育的ーとの村瀬先生のお話にハッとしました。意識と行動を変えたら自分も周りもハッピーになるはず。  
(久富明美)

性について知ること、自分も周りの人も大事にすることにつながる。子どもと性のことを話すのは気恥ずかしく感じるけれど、話しやすい環境を作っていきたい。  
(若林優香)

\* STAFF \*

サポーター 鈴木章 柄目茜 塚脇未来子 中村邦子  
宮代エリサ 森田あゆみ 山本文美子 渡辺桜子  
取材・編集 秋山茉莉奈 鳥崎理恵 沼田仁子 羽柴史美  
久富明美 若林優香  
武蔵野市男女平等推進センター担当職員  
編集協力 栗原毅  
表紙デザイン ふじわりりわ  
レイアウト 上田ジュンコ  
印刷 シンソー印刷株式会社

『まなこ』は市役所、市政センター、図書館、コミュニティセンター、駅、医療機関、理美容院、大型店舗、金融機関、おふるやさんなど市内の約490か所に置いてあります。バックナンバーをご希望の方は、男女平等推進センター「ヒューマンあい」まで。

\*配布は、公益社団法人武蔵野市シルバー人材センターのご協力を頂いております

市ホームページでもバックナンバー  
をご覧いただけます。

武蔵野市 まなこ 検索

◎綴じ込み返信はがきで、ご意見や感想をお寄せください。次号は、令和5年7月発行予定です。